

H28WG の指摘事項について

No.	指摘事項	対応方針等（状況、予定）
1	DOC D-COD 及び DOC と水温の関係性を解析した結果、D-COD 及び DOC の極値と水温の極値に 1 カ月半程度の時間的ズレがみられた。 このズレは、藻類の種類の違いで分解溶存物がちがうためではないか。（清家委員）	【方針】※資料 3-2 で説明 ● H28No. 2 の難分解性有機物の調査研究の継続にあたり、単離培養した藻類の分解物の DOC を含め分析することになっていたが、単離培養がうまくいかなかったため、大谷先生と相談し引き続き取り組む。
2	難分解性 藍藻、緑藻、珪藻等さまざまあるが、どれが分解されても EEM 測定・PARAFAC 解析では同じパターンを示すのか。 単離培養したものでも検討してはどうか（大谷委員）	【方針】※資料 3-2 で説明 ● 今後の難分解性有機物の調査研究においては、単離培養したものも対象とすることになっていたが、単離培養がうまくいかなかったため、大谷先生と相談し引き続き取り組む。
3	モデル プランクトン種を複数に（中田委員）	【方針】 ● プランクトン種毎に水温など各項目の経時変化グラフ（レビューP25）を作成・整理し、相関等が見られた種を、代表種の候補とする。 ● 上記作業進捗の都度、大谷先生と協議の上、進めていく。

H29WG の指摘事項について

No.	指摘事項	対応方針等（状況、予定）
1	濁水 ①山林の樹種や土地利用、傾斜、土壌のタイプ、②側条施肥等の施肥体系を整理の上、検討を（道上科長）	【方針】※資料 2-2 で説明 ● ①については、まず中山間センター等から情報収集を行った。 ● ②については、雲南市及び地元農家から聴取を行った。
2	濁水 濁水に含まれる TP と TOC の相関が強いことから、有機態リン等も粒子態のものの中に含まれているのか検討してはどうか（清家委員）	【結果】※資料 2-2 で説明 ● H29 年度のデータで解析を行い、清家委員と懸濁態の P や C の相関について協議を行った。 ● その相関の解明に向け、追加調査として H30 年 11, 12 月採取した水に含まれる鉄の分析を行い、濁水発生時に各地点で懸濁態の鉄の濃度が大幅に上昇することが確認された。

資料 2 - 1

3	難分解性 表層(湖面下 0.5m)と底層(湖底上 1.0m)の比較を(井上委員)	【結果】※資料 3-2 で説明 <ul style="list-style-type: none"> ● H28～29 年の調査においては、表層と底層の間で明確な傾向差は見られなかった。 ● H30 年度は 7 月に一度分析・解析を行ったが、機器所有の東邦大学の都合により H31 年 9 月まで分析・解析が行えないため、現在検体を採取保管中。 ● H31 年 9 月以降に分析・解析を再開の予定であり、引き続き比較・検討を行う。
4	難分解性 経月変動について、植物プランクトンとの関係は(大谷委員)	【結果】※資料 3-2 で説明 <ul style="list-style-type: none"> ● クロロフィル a 濃度とは第 1、2、3 成分に関して弱い相関が見られたが、優占種との明確な関係は見られなかった。
5	難分解性 蛍光強度と溶存態有機物の濃度との関係性を確認してみてはどうか(中村委員)	【結果】※資料 3-2 で説明 <ul style="list-style-type: none"> ● H30 年度は 7 月に一度分析・解析を行ったが、機器所有の東邦大学の都合により H31 年 9 月まで分析・解析が行えないため、現在検体を採取保管中。 ● H31 年 9 月以降に分析・解析を再開の予定であり、引き続き比較・検討を行う。

土地利用

資料 2-2
(差し替え版)

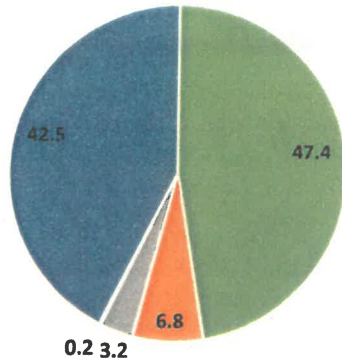
山林地域は集水域の9割以上が山林で、最下流部にわずかに水田あり
水田地域は集水域の46%を水田が占め、残りは山林がほとんどを占め
わずかに住宅地あり

樹種

島根県森林GIS(2014)

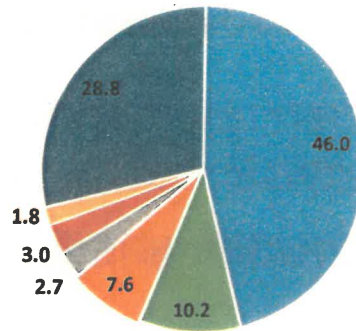
山林地域

単位：%



水田地域

単位：%



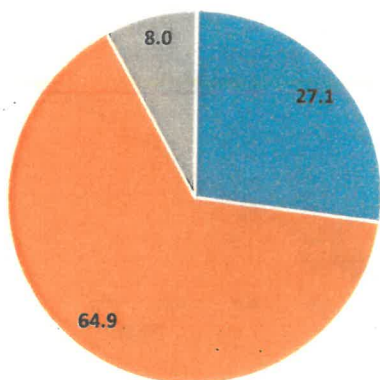
■ スギ ■ アカマツ ■ 竹 ■ ヒノキ ■ その他広葉樹 ■ 水田 ■ スギ ■ アカマツ ■ 竹 ■ クヌギ ■ ヒノキ ■ その他広葉樹

土壌のタイプ

土地分類基本調査より
(1974・1978年)

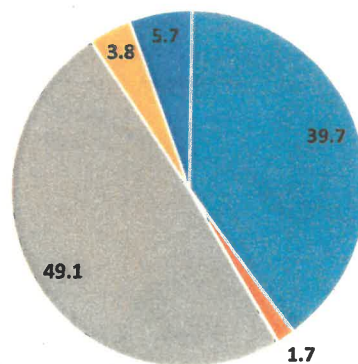
山林地域

単位：%



水田地域

単位：%



■ 粗粒グライ土壌 ■ 褐色森林土壌 ■ 乾性褐色森林土壌 ■ 細粒グライ土壌 ■ 褐色森林土壌 ■ 乾性褐色森林土壌 ■ 褐色森林土壌(赤褐系) ■ 細粒灰色低地土壌

施肥形体

地元農家聞き取りより

期間	内容	化学肥料
3/20～4/15	荒起し	
4/15～5/8	代掻き	使用
5/1～5/20	田植え	
7/10～7/20	追肥	使用

- ・今年度に関して堆肥は使用していないが、2、3年に1回は使用するとのこと
- ・田植えの際に側条施肥は行っていない

TPとTOCの相関

